

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4 年 11 月 30 日

事業所名 株式会社  
ILIFE ライフスタディ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	89%	11%	特性に合わせて1階と2階を使い分ける。	継続
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	規定通り	継続
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	44%	56%	階段がある為バリアフリーとはいえないがトイレなどは洋式にしたりと対応している。	完全バリアフリーが難しいが、特性に応じたサポートを検討していく。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	89%	11%	毎月の職員会議で業務改善を話し合っている	継続
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	75%	25%	今回初回	アンケート調査は行っており、改善策を講じている
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50%	50%	今回初回	アンケート調査は行っており、改善策を講じている
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	していない	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	実施している	外部研修、内部研修をしており機会を増やしていく方向
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	88%	13%	児童発達支援管理責任者だけでなく、各職員が児童の相談に応じており計画に反映していく。	継続
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	89%	11%	毎月の職員会議で申し送りしている。	継続
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	毎月の職員会議でプログラムを検討している。	継続
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	毎月の職員会議でプログラムを検討している。	継続
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	毎月の職員会議でプログラムを検討している。	継続
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	児童発達支援管理責任者だけでなく、各職員が児童の相談に応じており計画に反映していく。	継続
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	75%	25%	日々出勤後や児童帰宅後は児童申し送りを行う。	継続
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	67%	33%	日々出勤後や児童帰宅後は児童申し送りを行う。	継続
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	記録システムを使い、日々の記録をつけている。	継続

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	児童発達支援管理責任者にて保護者面談を随時行っている。	継続
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	100%	0%	毎月の職員会議で業務改善を話し合っている	継続
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者だけでなく、各職員が児童の相談に応じており計画に反映していく。	継続
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%	児童発達支援管理責任者にて外部連携を行っている。	継続
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	57%	43%	特性的に投薬など服用している子に関しては、保護者経由で主治医の申し送りを伺っている。	継続
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	33%	67%	現在していない。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	放デイ卒業後の事業所とは連携するように努めている。	継続
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	57%	43%	必要に応じて行っている。	継続
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100%	0%	コロナ渦により控えている。	環境に応じて検討していきます。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	83%	17%	コロナ渦により実施事態がない	環境に応じて検討していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	86%	14%	児童発達支援管理責任者にて保護者面談を随時行っている。	継続
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	67%	33%	児童発達支援管理責任者にて保護者面談を随時行っている。	継続
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	児童発達支援管理責任者にて保護者面談を随時行っている。	継続
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	児童発達支援管理責任者にて保護者面談を随時行っている。	継続
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	50%	コロナ渦により実施事態がない	環境に応じて検討していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	管理者にて体制を整え、対応している。	継続
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	HPやSNS、ラインなどを用いて情報発信をしている。	継続
	35	個人情報に十分注意している	89%	11%	外部へ発信する記事に関しては管理者にて確認している。	研修なども取り入れより強化していく。

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	ご家庭の環境や保護者や児童の考えを汲み取り、必要な支援を検討している。	継続
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	63%	38%	コロナ渦により控えている。	環境に応じて検討していきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	89%	11%	毎月の職員会議を行い情報の共有や外部への情報周知を行っている。	継続
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	75%	25%	適時に行っている。	継続
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	88%	13%	毎月の職員会議で共有している。	継続
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	88%	13%	規定で位置づけている。	継続
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	88%	13%	アレルギーの子どもを把握している。	継続
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	発生毎に作成している。	継続